

年月日

19
10
30

ページ

04

NO.

グローバル 眼

「財布よりスマホをなくしたほうが大変」と揶揄されるように、中国では財布よりもスマートフォンが欠かせない存在だ。都市部にいる多くの中国人は、毎朝、タクシーを呼ぶアーリでタクシーに乗るか、自転車シェアリングサービスの後発参入者である哈羅单车(Hello bike)や配車アプリで頼み、喫茶店に行く前にスマートフォンで先にオーダーして待ち時間を節約する。レストランでは、ウエーターではなく、机に貼り付けられているQRコードをスキャンして注文する。当然だが、すべてのサービスにおいてモバイル決済で勘定を済ませる。

従来、病院では受け付けから診察、薬の受け取りまで混雑して大変だったが、モバイル決済による診察予約と診察料の支払いができるようになり、だいぶ改善されてい

る。ランチは出前アプリの媒介になるスマホは欠かせない存在だ。都市部にいる多くの中国人は、毎朝、タクシーを呼ぶアーリでタクシーに乗るか、自転車シェアリングサービスの後発参入者である哈羅单车(Hello bike)や配車アプリで頼み、喫茶店に行く前にスマートフォンで先にオーダーして待ち時間を節約する。レストランでは、ウエーターではなく、机に貼り付けられているQRコードをスキャンして注文する。当然だが、すべてのサービスにおいてモバイル決済で勘定を済ませる。

中国で拡大するモバイル決済



モバイル決済の経済社会に対するインパクトは、人びとのライフスタイルの劇的な変化だけではない。モバイル決済大手の

無人駐車場では、QRコードによる入場・料金精算の支払いが行われている

日本でも利用率上昇

る。また地下鉄もバスもサービスに至るまで、生활のあらゆるシーンに普遍化の兆しがある。こうしてモバイル決済は消費の場面から病院や交通などのパブリックが進んでいる。

モバイル決済の経済社会に対するインパクトは、人びとのライフスタイルの劇的な変化だけではない。モバイル決済大手の

から中国人観光客の決済手段には変化が起きており、2017年に比べると、クレジットカードと現金の利用比率が低下し、モバイル決済の利用率が上昇している。直近では、10月初めの国慶節の大型連休で海外旅行者700万人に上り、アリペイが発表したデータによると、同期間の日本でのアリペイの取引件数が前年同期の2・2倍

日本政府が消費税還元を機にキャッシュレス社会を推進している理由には、訪日観光客の利便性のためという側面もある。現在、中国のモバイル決済アプリを導入する店舗が増えているが、中国人観光客を呼び込むために、QRコードなどに対応できるモバイル決済

アリペイと北京大学デジタル金融研究センターなどは、中国におけるモバイル決済が家計消費を促進していることを明らかにした。モバイル決済が家計消費の成長に対する寄与率は約16%に上つており、食料品より教育や娯楽などの消費増加を促し、消費構造の変化を引き起こしているという。

一方、モバイル決済に慣れた中国人観光客は海外でもモバイル決済を利用したが、実際、昨年



伊藤忠総研
産業調査センター
趙 瑞琳